

# 次世代の協調 ITS 開発に関する共同研究



高度情報化研究センター 高度道路交通システム研究室

室長 **金澤 文彦** 主任研究官 **澤 純平** 研究官 **渡部 大輔** 部外研究員 **佐野 久弥**

(キーワード) 路車間通信、車車間通信、協調ITS

## 1. はじめに

本共同研究は、次世代の協調ITSについてアーキテクチャ、システム及び国内外普及展開の検討を行うものであり、高速道路会社2社、携帯電話会社1社、電機メーカー8社、自動車会社3社の計14社と国総研で構成しており、平成24年9月から平成25年10月末までが共同研究の第一段階の期間である。

本稿では、当共同研究の取組内容を報告する。

## 2. ITSサービスの現状

ITSサービスには、ITSスポットなどの道路インフラとのカーナビゲーションとの通信（路車間通信）による情報提供サービスや、ASVなど車同士の通信（車車間通信）によるサービスがあり、現状ではそれぞれが独立したシステムとして構築されている。

協調ITSは、路車間通信、車車間通信について通信方式やデータ形式などの整合を図り、両システムが連携、補完することで様々なITSサービスアプリケーションを実現するものである。(図)

欧米では、政府の強力な支援のもと、協調ITSに関する国際標準化が急速に進んでおり、ITSの国際展開においても協調ITSシステムの開発は重要である。

## 3. 対象サービスの選定

対象サービスについて、共同研究者間で意見調整を行い、196サービスを選定した。これらは安全運転の支援、交通流の円滑化、環境の改善、快適性の向上、緊急時対応、行政支援活動、経済支援活動の7分野に分類される。次に各サービスについて、「高度道路交通システムに係わるシステムアーキテクチャ（平成11年11月警察省、通商産業省、運輸省、郵政省、建設省）にて用いられた「サービス詳細定義シート」を参照して詳細定義を行った。

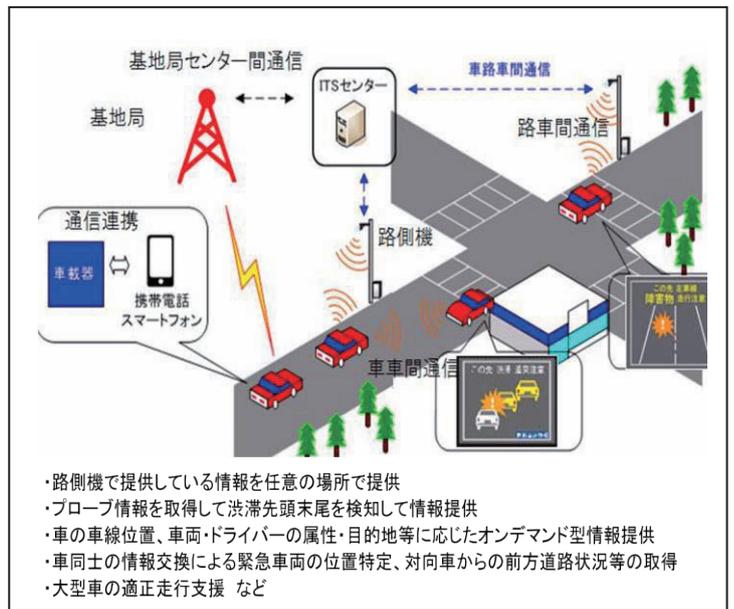


図. 協調ITSのイメージ

また、各サービスにおいて利用者とシステムの間で交換される情報の関係を整理した物理モデルとサービスに必要な「機能」及びそれが扱う情報の関係を整理した論理モデルの検討を行った。

## 4. 今後の研究の進め方について

平成25年10月までに、重点的に検討するサービスの選定を行いシステム構成の検討を行うとともに、国内普及展開のロードマップを作成する。

平成25年11月以降からは試作機の仕様作成、開発、及び実証実験と技術仕様・技術基準の作成を検討する予定である。

### 【参考資料】

高度道路交通システムに係わるシステムアーキテクチャ（平成11年11月警察省、通商産業省、運輸省、郵政省、建設省）